

地域No.1の技術を目指して

HIRANO METAL WORKS

株式会社 HIRANO METAL WORKS



本社外観



第4工場

企業概要

代表取締役
平野 博明氏



所在地 三重県桑名市長島町平方111
TEL:0594-41-1000 FAX:0594-41-1001

創業 1969年(昭和44年)10月

設立 2000年(平成12年)10月

資本金 300万円

従業員数 48名(2025年8月現在)

事業内容 工作機械の部品加工(得意分野:鉄、鋳物、アルミ、ステンレス各種、小物中物大物、機械加工、試作)

URL <https://hiranometalworks.com/>

高難度・高精度の部品加工に挑み、
技術力でさらなる高みを目指す

大手メーカーからも 信頼される技術力

桑名市長島町で複数の工場を展開し、金属部品の高難度加工を得意とする企業として注目を集めるのが株式会社 HIRANO METAL WORKSである。現社長の平野博明氏の義父にあたる平野勝氏が1969年に創業し、当時は従業員5名ほどの小さな町工場であった。現在は従業員数48名、4つの工場を有すまでに事業拡大し、部品加工の技術は大手工作機械メーカーから絶大な信頼を得ている。同社が急成長を遂げた背景には「やらずに後悔するより、やって後悔した方がいい」という現社長の信条にもとづき推し進める「挑戦型の経営姿勢」がある。

地域で一番を目指し、 工場を変えていく

平野社長は大学卒業後、J R

西日本に就職。入社後、仕事にやりがいを見出せずにいる中、結婚を機に妻の実家が営む「平野鉄工」に婿養子として入社することになった。大企業から小さな町工場への転身ということもあり反対もあったが、イキイキと働く職人の姿と「頑張って作れば作るほど収益が上がる」収益構造の明快さに魅了され、技術者としてのバックグラウンドを持たずにものづくりの世界に飛び込んだ。そして、いかに効率的に高品質の部品を製作できるかを考え、日々ものづくりと向き合った。

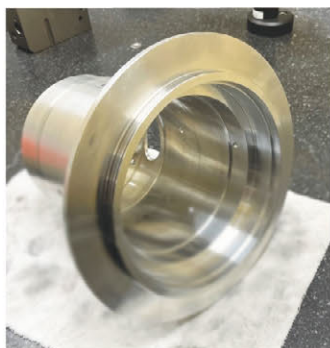
「温厚な義父は、『一番を目指さずとも、真面目に目立たずに事業を行うのが良い』と考えていた。ただ、自分はやはり一番を目指したかった」と平野社長は当時を振り返る。一番を目指し、真摯に技術向上に取り組む博明氏を見て、義父は快く社長の座を譲ることを決めた。今では40年来の取引先である大手工



高度な技能を有する技術者



長尺・大径ワークの旋削からミル加工まで可能な横形複合加工機



薄肉アルミ加工に成功

に語学研修を受講させることで組織のマネジメント能力向上を図っている。また、同社では従業員の資格取得を推奨しており、国家検定である技能士資格は特級を2名、一級を3名、二級を5名が取得。受験費用はもちろ、合格者には報奨金が支給され、挑戦を後押しする制度が整っている。

また、平野社長は「単一の作業に特化するのではなく、プログラミングから加工、セッティングまでを一貫して理解し、完結できる職人を育てたい」と話し、皆がどの仕事でもできるような、高度な多能工の育成を目指している。

従業員の心を動かす 共有体験

従業員同士の交流の活性化にも積極的だ。参加率の低さが課題となりがちなバーベキューや飲み会に代わって導入したのが就業時間内に実施する全員参加型の「運動会」である。従業員はこの運動会をとて楽しみにしており、「来年も開催してほしい」との声が多数寄せられた。さらに、協力会社からも一緒に参加したいと申し出があったという。

もうひとつの取り組みとして、5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）活動がある。リーダー8名が交代で各工場を巡回し、現場の改善点を示す「5Sチャレンジ」を実施。52箇所のチェック項目について8割以上の合格点を取ると賞金が贈呈される。合格点達成という目標を通じ、従業員の協調性を育んでいる。

自社ブランドを持つ 「メーカー」を目指す

平野社長は自社の将来を見据え、次世代に安心してバトン渡せるような新たな組織体制の構築を視野に入れており、現在は現場マネジメントの強化を最優先課題に掲げている。

事業の方向性にも明確なシフトチェンジが行われている。これまでの受託加工にとどまらず、自社独自の製品開発に挑む姿勢を強めており、自社ブランドを持つ「メーカー」としてのポジ



旋盤と5軸マシニングセンタで加工した治具

作機械メーカーの代表からも、数ある一次下請け企業の中で「トップクラスの技術力」との評価を受けている。

2000年、有限会社平野鉄工に法人化し、その5年後には第2工場を新設。2006年に博明氏が経営を引き継ぎ、第2工場を本社工場とした。2008年に有限会社HIRANO METAL WORKSに社名変更。設備投資と工場増設を行いながら事業を拡大してきた。2024年には株式会社化し、第4工場を新設。規模拡大に伴い、個々の職人技に頼る町工場から皆が力を合わせて取り組むチームへと体制を転換していった。

HIRANO METAL WORKSの強みは高精度加工を可能とする技術力にある。同社は「マシニングセンター」と呼ばれる主にフライス加工（※）を得意とする工作機械と、旋盤・フライス盤・研削機などの複数の機能を兼ね備えた「複合加工機」を26台保有。これらを臨機応変に駆使して金属部品加工を行い、さらに三次元測定器を用いて部品の加工精度を検査している。

同社は通常では対応困難な高度な要求に対しても「できるかもしれない」という姿勢で引き受け、失敗と成功を繰り返しながら実績とノウハウを積み上げてきた。そして、品質はもちろんのこと、顧客の求めに応じて必要な時に提供することをモットーにしている。治具の独自開発や切削の工夫、固定方法の見直しなど、創造性と卓越した技術力で次々と結果を出しており、多くの会社から引き合いが途切れることがない。

対応困難な高度な 要求にも応える

「できない理由」を考えず、 まずやってみる

「何かをやりたいと思ったら、人に話すことを心掛けています。そうすると、助言をくれたり動いてくれたりする人が現れ、話の実現していく」と平野社長は語る。周囲からは「チャレンジャー」「後のことを考えない」などと評されているというが、自らも「先のことを予想して動けないタイプだ」と自認し笑う。

仕事の傍ら、趣味のトライアスロンのトレーニングを欠かさず行い、年に数回大会にも出場している。自らの限界に挑戦するトライアスロンのきつさや辛さが「楽しい」と話す。

従業員に対しては前例や慣習に縛られない自由な発想を歓迎している。「失敗しないと成長できないよ」と声を掛け、失敗を恐れぬ職場風土づくりに取り組んでいる。この「まずやってみる」というアグレッシブな姿勢は、特に外国人従業員に深く根付き、同社の競争力を飛躍的に底上げしている。

特筆すべきは、外国人材が単なる労働力にとどまらず、技術向上の主体となっている点だ。柔軟かつ新たな発想で難しい案件に意欲的に取り組むことで、さらに高精度加工の技を身につけている。

多様な人材活用と高度な 多能工育成

外国人材のチャレンジ精神が頼もしい一方で、課題がないわけではない。一部の外国人従業員の中には整理整頓が不得手であったり、自身の能力を誇張したりするような発言が見られることもある。そうした側面に対しては、日本人従業員の着実かつ慎重な仕事ぶりと組み合わせることで互いの短所を補い、長所を引き出すようにしている。

外国人従業員が戦力となる組織において、言葉や文化の壁は避けられないが、直属の管理職



全員参加の運動会

シヨも模索中だ。

「現状維持は衰退の始まり」と平野社長が語るように、株式会社HIRANO METAL WORKSは常に新たな挑戦を続けてきた。これからの固定観念に捉われず、多様性を積極的に受け入れながら、次の道を切り拓いていくだろう。

編 員 会 員 事 業 部 中 嶋 理 可

支店より一言

世界トップクラスの工作機械メーカーから高い技術力を評価され躍進を続ける同社。平野社長は人材不足や技術向上のため、外国人従業員には定着化にとどまらず多能工職人となるよう積極的に育成に努められています。まさに趣味のトライアスロンで培われたチャレンジ精神の賜物だと思います。今後も自社ブランドを持つメーカーに向けて更なる飛躍を期待しています。



百五銀行 桑名支店長
兼 江場支店長
三木 紀英



トライアスロンに打ち込む平野社長

（※）フライス加工…回転する刃物で材料を削り、さまざまな形状を作り出す加工方法。一方旋盤加工は、材料が回転する。